

# 米軍が「穴文殊」一帯を破壊

今実施されている米軍基地建設のための工事で、「穴文殊」一帯が破壊されています。国定公園がいとも簡単に破壊されました。当初、政府・防衛省は、景観を守る、松の木は切らないなどと言ってきましたが、松の木の伐採にとどまらず、「穴文殊」一帯の岩を粉砕し破壊する工事が進められています。政府・防衛省の住民への説明と違う内容が明らかとなってきています。



## 事前の環境評価をせずに工事を強行

基地建設に関して、在日米軍には、アメリカ大統領命令で事前の環境評価が義務付けられています。ところが、その実施や内容について何も明らかにしていません。

日本環境管理基準（JEGS）にもとづく事前の環境評価問題で、在日米陸軍司令部（神奈川県座間市・キャンプ座間）は、「日本政府の情報に基づき、自然・文化的遺産の現地調査は必要ないと判断された」（京都新聞8月28日付）と答えています。米軍基地が設置される場所は、住居が近接し、国定公園内で山陰ジオパークに指定されています。政府・防衛省は、「JEGSは米軍の責任で実施されるもの。地域の実情は米軍に伝えてあり、きちんと対応されると思う」（6月6日府民の会防衛省交渉）と答えていました。ところが、日本政府のアドバイスによって、米軍がまともな調査をしなかったことが明らかとなりました。



2013年12月15日峰山での米軍基地設置に反対するデモ

## 安倍首相「アメリカに飛ぶミサイルを迎撃する」

安倍首相は、集団的自衛権行使容認に関して、「米国領土に飛ぶミサイルを迎撃する」と発言しました。

そもそも米国領土へ行くミサイルを探知することを目的とした経ヶ岬の米軍基地は、「相手国」から必然的にターゲットなり、テロの対象ともなりますが、この発言で、地域の危険性は格段に増します。



写真上：米軍基地建設で「穴文殊」一帯が破壊された。松の木も伐採。写真下：海食洞の真上に米軍基地がつくられる。

## 強い電磁波でドクターヘリの運行に支障が

強い電磁波のため、半径6キロ高度6キロが飛行禁止となりますが、地域の救急医療にとって不可欠なドクターヘリの運行に支障をきたします。防衛省は、すでに設置している青森県車力での例をあげ「事故（海難者捜索）の時は停波（レーダーの電波を止めること）してきた」（住民への説明）としていました。ところが、米軍は「停波した記録はない」（京都新聞8月28日付）と回答し、今後も停波するかどうか明確にしませんでした。



重機関銃で射撃訓練中のシュネガ社員たち（シュネガ社HPより）

## 米軍の犯罪・事件・事故に不安が一層強まる

米軍による犯罪や事故に対する不安が一層強まっています。京都府などは日米地位協定の改善を求めたことをもって基地の受け入れに協力するとはしましたが、現状では改善は全く望めません。米軍や軍属の犯罪や事故はあいかわらず発生し、日米地位協定によって米兵や軍属の責任は多くが放任されています。身近な交通事故でも不安が強くなっています。米軍関係者は、日本の免許証不要、自賠責補償は小額で任意保険加入率が低い、車庫証明も不要（脱法的）、高速道路無料（日本政府が払う）など問題だらけです。米軍と軍属の配備は、9月末からは140名が配備され、12月からは160名が配備されます。米兵20名、軍属（警備<傭兵>とエンジニア）140名の規模になり、当面、京丹後市内のホテル住まいをします。

## 住民過半数が「米軍基地は、きてほしくない」

京丹後市では、米軍基地設置反対連絡会、現地宇川では、米軍基地建設を憂う宇川有志の会が、基地建設に反対し、とりくみを進めてきました。米軍基地建設に反対する署名には、米軍基地が設置される京丹後市宇川地域の住民の過半数が署名。京丹後市、京都府に署名を提出しました。また、府民の会は、これまでに4万4筆以上の署名を京都府、政府、国会などに提出。米軍基地設置を撤回することを求めています。



2012年11月、横田基地近くで起こった米軍関係者（Yナンバー車）による自動車事故の現場

写真はいずれも京都平和委員会、憂う会、府民の会提供

写真奥の半島が米軍基地となります。



# 京都・経ヶ岬に米軍基地は、 いりません！

日米両政府は、京都の最北端・経ヶ岬に米軍基地をつくらうとしています。現在、建設工事が行われ、2014年の10月から140名あまり（12月から160名）の米兵と軍属が配属されます。この基地には、「Xバンドレーダー」を置き、大陸からの弾道ミサイルを探知するとしています。米軍基地は完全な治外法権です。現地は、住居が近接し、自然豊かな場所です。国定公園で、山陰ジオパークに指定されています。写真手前の棚田は、棚田百選に指定されています。写真奥の半島部分にも田畑が広がっていましたが、これらを強引な「土地交渉」で借り上げ、米軍基地が建設中です。

10月にはレーダー本体を搬入し試験運用し、12月には本格運用するとしています。私たちは、この米軍基地建設に反対しています。どのような基地が作られようとしているのか？その危険性は？などをこのリーフレットで紹介します。今、安倍内閣は、沖縄(辺野古)で米軍の新基地をつくらうとし、本土でも、佐賀空港を軍事基地化しようとするなど、米軍基地をなくしていくどころか拡大強化し、日本の軍拡を進めています。私たちは、このような方向は、けっしてアジアの平和につながらないと思います。

## X バンドレーダー って？

### 1000キロ先の野球のボール大を見分けられる



Figure 1-3. AN/TPY-2 (FBM) with Essential Support Equipment

写真は、Xバンドレーダー（AN/TPY-2）の装置一式(移動式)で、一番手前がレーダーです。他に制御装置、冷却装置などです。このレーダーは、1000キロ先の野球のボールほどの大きさの物体を見分けることができます。

米国がミサイル防衛のために、監視とミサイルを迎撃するために開発したものです。強力な電磁波を照射するため、レーダーの前方150メートルは立ち入り禁止。前方180度の半円柱形の空域は半径6キロ、高度6キロが飛行制限区域となります。

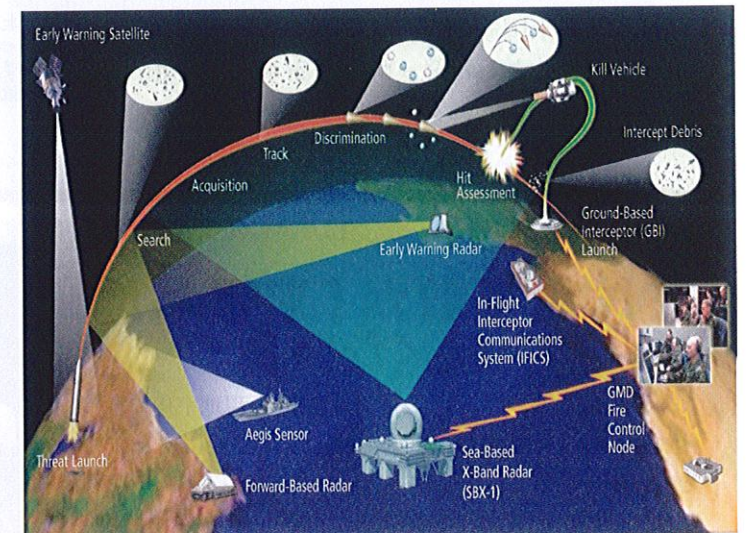
Xバンドレーダーは、米国本土防衛のためのミサイル防衛システムと一体のもので、米国防衛が目的です。(下段参照)

アメリカのミサイル防衛と京丹後の米軍基地とは、どのような関係になるのでしょうか？

アメリカには、国防総省にミサイル防衛庁があり、BMD(弾道ミサイル防衛システム)を構築しています。発射されたミサイルの情報は、早期警戒衛星や偵察機、Xバンドレーダーなどからも集められ、アメリカ本土の北米防空司令部でアメリカ本土やアメリカの領域に向かっているかどうか判定され、危険となれば展開するイージス艦や地上の基地や部隊からミサイルを発射させ迎撃するシステムとなっています。

アメリカ本土をミサイルから守るために海外の基地を使い、より前方でミサイルを迎撃すればアメリカは無傷、というわけです。京丹後は、文字通り、その最前線の目となります。

## アメリカのミサイル防衛 と京丹後の米軍基地 京丹後がアメリカの最前線の目に



米軍専用レーダー基地の設置の撤回を求める京都府民の会(米軍基地いらない京都府民の会)

連絡先:京都市中京区壬生仙念町 30-2 ラポール京都5階 京都総評内 京都共同センター気付

TEL 075-801-2308 fax 075-812-4149

2014・9